

脱炭素・持続社会研究プログラム
-----------------

委員会の主要意見		主要意見に対する国環研の考え方
現状についての評価・質問など	脱炭素社会に向けた政策ロードマップや GHG 排出シナリオ開発、CDR 導入評価など、政策形成に資する研究が体系的に進められている。各プロジェクトで成果が着実に蓄積され、高品質な論文発表や IPCC・NDC 等への貢献を通じ、国際的にも存在感の高い研究成果が創出されている。	評価していただき、ありがとうございました。引き続き、脱炭素社会の実現に向けた研究に取り組み、成果の発信と国際貢献に努めていきます。
	赤身肉から小型魚類への置換や飢餓リスク評価、アマゾン熱帯雨林劣化予測など、気候・食料・生物多様性を統合的に扱う重要成果が得られている。	引き続き、脱炭素社会の実現と社会課題の同時解決に向けた研究に取り組み、成果を発信していきます。
今後への期待など	生物多様性・適応・緩和を横断する研究連携をどのように強化し、社会システム評価や政策実装に結びつけていくか、ということにも今後期待する。	適応、生物多様性との関係につきましては、PG 内でも認識はしており、環境研究総合推進費 S-21 等を通じて取り組みを始めています。次期中長期計画では、脱炭素に加えて資源循環、自然再興も含めた新たなプログラムが始まりますので、そうした場において取り組んでいきたいと考えています。
	2050 年以降のシナリオも検討することで世界を先導してもらいたい。また、便益についての評価は産業界に対するメッセージとして今後重要になる。	2050 年を超えた長期のシナリオを示している国もあり、国内の排出シナリオも 2050 年を超えて定量化することは可能です。いかにしてマイナスの排出を維持するかといった点についてリアリティをもって評価してきたいと考えています。便益の評価につきましてもご指摘の通りですので、どのようなメッセージが対策を後押しするかを踏まえて分析を深化させたいと考えています。

## 脱炭素・持続社会研究プログラム

委員会の主要意見		主要意見に対する国環研の考え方
現状についての評価・質問など	第5期を通じ、各PJで成果が着実に蓄積され、高水準の論文成果と社会課題対応を両立した研究が推進された点は高く評価される。地球規模から国家規模までのモデル連携により排出経路評価や脱炭素社会のロードマップが提示され、IPCC AR7への貢献や国際的リーダーシップが認められる。	評価していただき、ありがとうございました。引き続き、脱炭素社会の実現に向けた研究に取り組み、成果を発信していきます。
	メガソーラーに関して、太陽光発電の有効性の検討の際に、補助事業など政策的な条件や太陽光パネルなどの耐用年数経過後の処分なども考慮に入れて検討されているか。	太陽光パネルの耐用年数経過後の処分については、太陽光パネルだけを評価しているわけではありませんが、廃棄物処理部門として評価しています。関心の高い問題でもありますので、具体的な処分等についても明示できるように検討していきたいと考えています。
今後への期待など	脱炭素とネイチャーポジティブとの連携の深化が期待される。	脱炭素とネイチャーポジティブとの両立につきましては、次期中長期計画のプログラムにおいて取り組む課題ですので、しっかりと研究を進めるとともに、成果を発信していきたいと考えています。
	2050年以降を視野に入れた長期シナリオや便益評価を進め、産業界に対して「気候対策は利益につながる」というメッセージを強化することも重要と考える。	国内の排出シナリオも2050年を超えて定量化することは可能で、いかにしてマイナスの排出を維持するかといった点についてリアリティをもって評価していきたいと考えています。便益の評価につきましてもご指摘の通りですので、どのようなメッセージが対策を後押しするかを踏まえて分析を深化させていきたいと考えています。
	府省庁を跨ぐ政策立案への活用やIPCC-AR7への貢献に向けた研究の推進が期待される。	引き続き、脱炭素社会の実現に向けた研究に取り組み、成果を発信するとともに、政策提言や民間への提言に向けて、どのようなメッセージが重要となるかを検討し、研究を進めて成果を発信していきます。